



# からしだね

## キリストの受難 カトリック池田教会

2015年  
10月号 (509号)

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父  
 協力司祭：デニス・マックゴワン神父  
 住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26  
 TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624  
 URL(ホームページ)：  
[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



カトリック宝亀教会 (長崎県平戸市) 教会の紹介文は4ページ

巻頭言	2	カトリック宝亀教会	4
畠神父様に対する教皇様の回答	5	平和旬間上映会の報告	6
ガラスケースの言葉	7	宝塚黙想の家から	8

表紙写真 撮影:神崎 茂

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です。

完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください。

## 巻頭言

## セブンステップ –さらなる深みを目指して

畠 基幸神父

セブンステップを使って評議会を始めるようになって数カ月がたちました。評議会では、議事録にあるように、もう少し先の第6ステップを学びたいという要望がありました。巻頭言の場を使って、セブンステップを解説してみます。

(初めに、セブンステップを導入として評議会の祈りの部分に入れるのは、キリスト信仰の世界観に生きるためです。私たちはこの時代の子として神の声は聞こえないものとして、主体的に自分の自由と責任において判断することが普通です。そこから信仰は生活から遠く離れます。信仰は主観的な確信ではなく、客観的な実体(あつてある者)である神、しかも復活されたイエスは生きておられることを信じ、私の主として受け入れることですから、生活のあらゆる面でかかわりをもってくださることを期待すべきなのです。セブンステップは、み言葉を通して語りかけられる主に意識を向けるのです。そのため、主を呼び求める最初の導入は大切です。)

評議会では、主日のミサの福音箇所を分かち合い、それから評議会の議題に入ります。第1ステップから第5ステップまでは、どちらかといえば、み言葉に触発された心の動きやその反応を中心にしたものです。キリストの現存を味わうことが目的です。第6ステップになると、具体的な行動について話し合います。このステップでは、準備と考察が必要です。そして最終的な決定に命を与えるのは、具体的な出来事や問題に対する「福音に基づいた識別」(使徒的勧告「福音の喜び」50項)です。評議会では、その識別のための資料、あらかじめ提出された各委員会の報告と提案などが準備されています。討議する内容であれば、討議する提案が出席者にあらかじめ配布されて情報が共有されていることが必要です。

第5ステップと第6ステップには、大きな段差があり、せつかくの祈りの雰囲気が出なくなり、台無しになってしまうという不満もあります。評議会では、活動の報告と課題の解決の方策に主な時間が使われるからです。しかし、このステップを踏んでいるのかいないのかの違いは、分かち合いでイエスの現存を味わった同じ信仰の仲間として積極的に参加する意識が芽生えます。このセブンステップは聖書研究にも使えます。つまり、第6ステップを聖書研究にするのであれば、聖書百週間の方法のように、発表者が準備したことを報告し、それを分かち合うという方法があります。長年のわたしの聖書研究はこのスタイルを使ってきました。セブンステップではないのですが、溝部司教様が主催している京都の望洋庵の聖書の分かち合いは、第6ステップと第7ステップを拡大したものです。望洋庵の分かち合いは、「当日に学ぶ福音箇所をもとに、自分自身に起こった身近な出来事の体験や考えてきたことを一人の人が準備して

語るところから」始まります。そして各自がその箇所を黙想し、溝部司教様がその解説を担当し、その後5～6人のグループで分かち合いをするという方法です。

溝部司教様のところでは、第1ステップから第5ステップは、省かれているというよりも、仲間の生活の発表を通して、各自の生活を照らし、そこからみ言葉が各自の生活にも生きている、あるいは生かすことができることに気づきます。青年たちは望洋庵に寝泊まりし、朝のミサが義務になっているので夜更かしできないが、同じ志をもって祈り、学ぶという共同体意識が生じてきて、祈りの生活を楽しんでいると思います。ここで召命を見つけた青年も何人かいると聞きました。

私たちの池田の場合を振り返ると、教会のメンバーは、ほとんどが一週間に一回主日のミサに顔を合わせるだけで、分かち合いの時間がありません。信者の中に働く聖霊の息吹を感じることはできません。それで、ミサ後、少しでも時間の余裕のある方は、セブンステップの分かち合いに参加していただきたいのです。第1ステップから第5ステップまでの目的は、信じる者の中に働く聖霊の息吹を感じ合い、一人ひとりに働かれる神の霊を信じる信仰の仲間であることを確認することにあります。この部分だけなら5～6人で30分以内に終わります。確かに、望洋庵のように生活のあかしを先ず分かち合いたい人もいられるでしょう。しかし、人生の分かち合いは長時間になるので、これは別の機会に大いにやっていただければと思います。

私がなによりも望んでいることは、信仰の環境を作ることです。セブンステップ第1ステップから第5ステップは、慣れてしまえば信仰の環境づくりの効果的な手段だと思います。意識的に家庭で、子供たちとともに集まり、み言葉を味わい、お互いに多くのことを学び合います。堅信の子供たちに家で祈っているかと聞くと、ほとんどが食前食後ぐらいしかしないと聞いて驚きました。次に、第6ステップでは、そのみ言葉を実行する方法を話し合います。具体的に<いつ・どこで・何を・どのように・誰が行う>かまで決めます。煩雑な感じですが、来週は誰がリーダーになり、聖書箇所はどこで、誰が解説を担当するか必要な役割をきめることです。あるいは最近見えていない親しい友人の訪問を一緒にしませんか?」とか、具体的なキリストの愛を実践する奉仕の相談などです。

委員会は、特定の目的を遂行する活動が中心です。ですから、みことばの分かち合いは時間の無駄のように感じられるかもしれませんが、みことばの分かち合いがなく、祈りや賛美の時がなければ、聖霊の働きは掛け声だけになって、互いの存在の中に宿るキリストの現存に出会わないかもしれません。福音を具体的行動にあらわす委員会活動がマンネリ化する可能性があります。

ところで、識別するプロセスは、神の前では、何が大切な価値あるものであるか(フィリピ1・10)を知っていることが前提です。その価値を共有していなければ、共同識別はできないと考えられています。現在、評議会では、新生計画20周年振り返りの一年として、教区の計画の具体的な表現としての規約を読み直そうと呼びかけました。私たちは大阪教区の5つの教会像の価値を十分に共有しているとは言えない状態です。

共同識別はできないと考えられています。現在、評議会では、新生計画20周年振り返りの一年として、教区の計画の具体的な表現としての規約を読み直そうと呼びかけました。私たちは大阪教区の5つの教会像の価値を十分に共有しているとは言えない状態です。大阪教区の使命「交わり証しする教会」、そして使命を果たすために大阪教区が目指す教会像（1）谷間に置かれた人々の心を生きる教会、（2）「交わり」の教会、（3）「共同責任」を担い合い、協働する教会、（4）聖霊の導きを識別しながらともに歩む教会（5）司祭、修道者との協力を重視しながら、信徒の役割と責任（使命）を前面に出す教会、そして教会像を実現するための行動指針として、「現実—共同体—信仰」を生きると「交わりの使徒」としての派遣に生きるが掲げられています。これらのビジョンには、福音的価値が土台としてあります。私たちは、セブンステップのみことばの分ちを通して「信仰の感覚 (sensus fidei)」を養いましょう。そうすれば、福音的価値の土台の上に築かれた大阪教区のビジョンと目標をもう少し噛み砕いて身近なものにできると思います。

## カトリック宝亀教会

住所：長崎県平戸市宝亀町1170

カトリック宝亀教会は、明治31(1898)年、マタラ宣教師の指揮のもと、五島列島宇久島出身の大工・柄本庄市によって建てられました。

平戸市内で最も古い教会建築で、数ある長崎県内の教会の中でも15指に入る歴史を誇ります。正面の外観からはレンガ造りのように見えますが、主体構造は木造で、建設当初からのステンドグラスは、美しく貴重です。



小さな宝亀集落の山あいにはひっそりとたたずみ、白い漆喰とレンガ色のコントラストが美しい。こうもり天井や大頭アーチ式の円形窓など建築学的にも貴重な多くの特徴をもち、平戸を代表する美しい教会。

## 畠神父様に対する教皇様の回答

カリスマ刷新の世界司祭黙想会（6月18日）において、アジアを代表した畠神父様とフランシスコ教皇様との間で質疑応答がなされました（「からしだね」7月号参照）。教皇様のスペイン語による回答音声（YouTube）はシスター・ペピータ（天使の聖母）によって和訳音声となり、それを畠神父様が文章化され、文中の括弧内の注記を加えられました。

先ほど、聞いたのは、韓国の教会は、やはり信徒によってつくられました。日本では同じように信徒の協力で教会が立てられました。信徒だけでなく殉教者によるものです。アジアではいろんな殉教者があります。他のアジアの国々も、福音宣教は宣教師によって行われました。たとえば、フィリピン、インドなどです。と言っても、アジアはとても広いですから、アジアの中で一番大事なものは、霊的な賜物、霊的な豊かさです。わたしは、強く言いたくないのですが、アジアは教会の将来であるということ、本当に自分から、自分の中でそう思っています。

私のした体験は、韓国の教会です。韓国の教会について勉強したし、向こうへ行って韓国を訪問しました（昨年、アジア青年大会やコットンネ共同体訪問）。韓国の教会の組織、カテケーシスのやり方とか、その後の同伴（アフター・ケア）はとても上手だと思います。わたしは、日本の場合はあまり深く解らないですが、アルゼンチンのイエズス会の宣教師から聞いた話では、日本では勉強によって福音宣教を行っています。デ・ルカ・レンゾ神父（教皇様がイエズス会の管区長の時に日本に派遣したアルゼンチン宣教師、現在、日本26聖人記念館館長）によれば中国と同じように、エリートの人たちのところに、エリートというのは知識の上で、大学によって福音宣教を行いました。けれども信仰を十分に証することは大事です。

私には、アジアは教会の希望でありますから、最近、枢機卿を増やします。アジアの枢機卿をつくることは、ローマのなかで、アジアの存在を示しますから、ローマの中でアジアの感性（感覚）を証するように望みます。それと、インドの教会はとても豊かであるし、このカトリックの人たちは頑張っています。特別にケララ州は豊かで、召しだしはとても多いですから力を持っています。アジアで進歩している国々は、やはりヨーロッパの悪い影響が入ってくるし、競争社会の中に生きていて、その中で若者は自死しているのは増えてきます。この現状は考えて止めるべきです。

この若者たちが競争する道は悪いです。その道を行ってはいけません。

将来考えてみると、アジアの感性、深い伝統、霊的な豊かさ、それらは本当に大事にしていかなければならない。他のヨーロッパとかオクシデント（西洋）からくる価値観について行ってはいけない。アジアではまだまだ霊的な価値観が息づいている。けれども、時には、船に乗ってくる多くの人たちは（難民のことか）アジアの国々では誰も受け入れてくれないということを見て、とても残念だと思います。

霊的な豊かさがあっても、なんでそれをおこなうか(難民を受け入れないこと)、私には不思議です。いろんなアジアの中でいろんな戦いがあることも、ちょっと不思議だと思います。いろんな、例えばパキスタンではカトリックの人たちが生きているままに焼かれたという事は、どうしてそんな残虐なことが行われるのかと自分自身不思議に思って、こんな事がありますか、自分の中で考えています。

アジアには希望と将来性があります。殉教によって血を流され、韓国、日本、台湾いろいろな国々は殉教者がいて本当に証しは豊かです。日本では教育によって宣教するように、フィリピンでは貧しい人への福音宣教を行い、韓国は素晴らしい教会活動をしています。どこでも社会活動は行っていかなければならない。しかし社会活動は信徒に任せてください。彼らはゆっくりとよく出来ますので。

## 平和旬間上映会の報告

平和旬間の上映会（8月2日）には60人もの参加がありました。ありがとうございました。

今回の平和旬間は、私達の住んでいる大阪が受けた空襲をDVDで見ました。戦後70年となり体験者が少なくなっている今日、身近な方々の体験談を聞くことによって、戦争の悲惨さと平和の尊さを痛感しました。今の平和とこれからの平和を考えていく機会になればと思います。以下、分かち合いの一部ですが、報告します。

◎大正区に住んでいたが、昭和20年3月第1次空襲後、四国へ疎開。疎開後すぐ父が死亡し貧乏な生活となった。8月6日の広島原爆投下時、広島方面の空が異様な光景であったことを覚えている。（5歳）

◎堺に住んでいた。防空壕を出たり入ったりしたことを覚えている。空が焼夷弾で真っ赤になって、とにかく逃げた。逃げるのに必死で人を助ける余裕はなかった。（7歳）

◎防空壕から攻撃の様子が見えた。怖くなったが、悲惨な記憶はない。（4歳）

◎戦闘機に乗っている人の顔が見えるくらい低く飛んでいた。

◎西区立売堀にいた母は、3月の空襲の時、2歳の子をおんぶして学校のプールの中へ逃げた。夫は出征中だった。家は燃えた。友の死を今でも言う。その後夫の実家で暮らし、ビルマで終戦を迎えた夫は無事帰国。（60代）

- ◎祖父は出征した話を一切しなかった。しかし、亡くなって10年して初めてその事実を私は知った。辛い体験は話したくなかったのだろう。(40代)
- ◎神戸大空襲で防空壕の入り口に焼夷弾が落ち、神戸の友が亡くなった。
- ◎山口にいたが、車で1時間以上の距離のある広島原爆の爆風で教室の窓が割れた。また、投下後広島から逃れる人や、街に動員される人々が汽車に乗っていたが、それまでない沢山の人の動きを、意味もわからずに見ていた。  
(小学 低学年)
- ◎鹿児島にいた。最後の沖縄戦に向かう輸送船が目の前の海でアメリカの潜水艦に沈められたが、箝口令がしかれ、その出来事について、尋ねる事も話題にする事も禁じられた。(女学校 3年)
- ◎長崎、広島原爆投下の悲惨さは折りにつけ見聞きするが、大阪大空襲の実態についてはほとんど知ることがなかった。平和に暮らしているこの大阪が8回の空襲を受け無惨に焼け野原になり1万3千人もの人々が焼死、圧死されたとは……。このDVDのリアルさは胸に刺さるようだった。(S25年生まれ)
- ◎戦時中、「なべを出して、こんなんでも戦争勝てるのかな」というような発言をすると憲兵に連れていかれる。実際、見た。戦争を止めようなんて発言ができる雰囲気ではなかった。

社会活動委員会



## 10月のガラスケースの言葉

疲れた者、重荷を負う者は、  
だれでもわたしのもとに来なさい

マタイ 11の28



## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

### ■ 日帰り黙想会

10月15日(木) 10:00 ~ 15:30 指導：山内十束神父

10月16日(金) 10:00 ~ 15:30 指導：山内十束神父



### ■ 週末黙想会

10月24日(土) 17:00 ~ 25(日) 15:30 指導：山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。

☎0797(84)3111

## 編集後記

川西能勢口駅の改札口を出て、阪急デパートへ向かう陸橋の端っこ。そこで勢いよく連呼している物売りがいます。『ビッグ・イシュー』というホームレス自立支援のための雑誌を売っている、40代ぐらいの男性です。雑誌を買っている人はめったに見かけません。通りかかるたびに買ってあげたいと思うのですが、両手に荷物を持っていたり、財布が袋の底にあって出しにくかったりして、素通りしてしまいます。立ち止まってもたもたするのは、なんだかかっこわるい。さっと小銭を出して、すばやく雑誌を受け取りたい。でもある日、手荷物が少なく、財布もすぐに出せました。「一冊ください」と話しかけると、その男性の顔がぱっと輝き、「ありがとうございます。実は、アパートに入れることが、つい2、3日前に決まったんですよ」と、それはそれは嬉しそうでした。ようやくホームレス生活から脱けられる喜びが、体からあふれでていました。不覚にも涙ぐみそうになったぐらい。350円で、すばらしい笑顔をいただきました。

ソフィー

